

## 御力に生かされる

(エペソ6・10)

## 一、御力に生かされる

信仰者の幸いとは、何なのでありましょうか。その一つは、困ったときに神に祈ることができる、助けを求めることができる、と言えるのではないのでしょうか。きょう開いています聖句——今年の指針聖句でもありますが——、**〈終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。〉**とあります。ここに、**〈強められなさい〉**と書かれていることに注目したいと思えます。私たち信仰者が主に祈るとき、「祈って終わり」ではありません。祈り求めますと、**〈その大能の力によって強められ〉**ます。すなわち、御力によって強くされます。これこそ、イエス・キリストを信じている方であるなら、だれもが体験として知っていることです。これを知っていませんと、たとえ信仰を持っていても、現実の厳しさに寄り切られてしまいます。なぜなら、現実はいざしばしば私たちの平穏な生活を打ち壊してしまう、悪魔のような勢力になるからです。そういう現実の前に、私たち人間の力は無力です。たとえば、家族が事件に巻き込まれてしまった、病気が悪くなって死んでしまった、受けた手

術がうまく行かなかつた、等々です。それらは、決して他人事(ひとこと)ではありません。ある人に起こることは、自分にも起こりますし、自分の家族にも起こります。旧約の「伝道者の書」に、こういう聖句があります。(9・2すべて**の事はすべての人に同じように起こる。同じ結末が、正しい人にも、悪者にも、善人にも、きよい人にも、汚れた人にも、いけにえをささげる人にも、いけにえをささげない人にも来る。善人にも、罪人にも同様である。誓う者にも、誓うのを恐れる者にも同様である。〉**と。この指摘は正しいと思えます。私共信仰者は、昔も今も、「私は神さまを信じているのだから、神さまが守ってくれるでしょう。ひどい災いにも遭わないでしょう」と思いがちです。ですが、現実はそのようになります。思いも寄らない事件や事故に巻き込まれてしまうことがあります。そういう場合に必要なのは、周囲の支えです。ですが当然のこと、周囲は支えきれません。意気消沈している当人を励ますためには、知恵と力が必要です。その不思議な知恵と力は神からやってまいります。キリストによって御自身をあらわされた父・子・聖霊なる神からやってまいります。

## 二、「大能の力」とは

さて、聖句に**〈その大能の力によって〉**と書かれています。どのほどの力な

のでしょうか。エペソ書1章20節、21節で語られています。「新改訳2017」を見てまいります。**〈この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。〉**と。すなわち、6章10節で、**〈主にあつて、その大能の力によって強められなさい〉**と語られている**〈大能の力〉**は、キリストを死者の中からよみがえらせ、天に引き上げられた御力であることが分かります。これならば、悪魔が牙(きは)をむき、あるいは悪魔が勝ち誇って笑っているように見えても、信仰者がひるむことはありません。

それにしましても、私共が悪魔の勢力に勝てないと思うのは、自分自身に襲ってくる場合ではなく、不幸が続いて打ちひしがれている方の話を聞いたときです。たいへんな状況の中にある人の話は、聞くことはできたとしても、それ以上に何かをする、すなわち相手の力になるのは、むずかしいことです。むしろ、こちらが相手の抱えている悩み、の重たさに引きずり込まれてしまいうるようになります。

ですが、冒頭でも申しましたように、信仰者は祈ることができます。人の話を聞きつつも、神に祈り求めることが

できます。そうしますと、不思議な御力を授かります。聖霊がもたらす知恵の言葉を授かります。

## 三、強められなさい

主の御心は、信仰者が主にあつて強められることです。**〈主にあつて、(略)強められなさい〉**と命じられているからです。

そこで、皆さま。私たちは、祈りをささげる際に、ただ「〇〇してください」だけでなく、「大能の力によって、私を強めてください。知恵をください」と祈ろうではありませんか。その祈りは御心になつていきますから、主は願いを良しとされ、適えてくださいます。そういうわけで、私たち信仰者には御力が必要です。それは、聖霊がもたらす御力です。それがなければ、この世に負けてしまいます。打ち負かされてしまいます。この世の力に流されてしまいます。場合によっては、信仰さえ失つてしまいます。そうなることは、もちろん主の御心ではありません。神は、イエス・キリストにあつて、聖霊を遣わすと約束され、実現されました。

私たちが聖霊を求めないとするなら、それは武器を身に着けず、丸腰で戦いに出ていく戦士のようなものです。そういうであつてはならないはず。それゆえに、パウロは語りました。6章13節より17節をご覧ください。